



# 基礎学力の定着・向上に向けたアクティブラーニング型授業の実現

山形県立庄内総合高等学校 教務主任 五十嵐一明 (sigarashika@pref-yamagata.ed.jp)

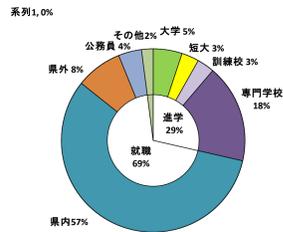
## 庄内総合高等学校

平成7年 県内初の単位制・総合学科設置  
今年度 創立90周年

現在3年2クラス、  
1・2年3クラス、270名

＜キャリア教育＞  
＜地域連携＞

『磨こう個性を 拓こう未来を』をスクール  
モットーに、心豊かにたくましく生き抜く社  
会人の育成を目指している。



## 文部科学省指定調査研究事業 (H28年度～)

1. 「山形県高等学校基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業検討会議」の設置
2. 実践研究校における研究・実践内容
  - ・校内学習指導改善推進委員会の設置
  - ・**アクティブ・ラーニングの推進 (学力の3要素が反映された授業デザイン)**
  - ・ICT機器の活用と学習評価の研究
  - ・基礎学力向上に係る視察研修及び校内指導改善教員研修会の開催 (京都大学の溝上慎一教授を招いての教員研修会2回実施。)
3. 高等学校基礎学力テスト (試行テスト) 実施体制の確立
4. 高等学校基礎学力テスト (試行テスト) の活用検討



[実践研究校：山形県立庄内総合高等学校 総合学科]  
— (文部科学省HP掲載)

## 平成28年度「授業改善」の取組み

◆例年授業研究期間を設定し、各教科1人ずつ研究授業を行っているが、状況が改善されておらず毎年の課題となっていた。



- 7月 研究授業週間実施  
テーマ「コミュニケーション能力の育成と基礎学力の定着」
- 8月 職員アンケート実施 (ALと基礎学力について意識調査)  
職員研修「AL型授業への転換」溝上慎一先生  
国語・地歴・音楽の研究授業実施 第1回県会議
- 10月校内職員研修会 (「チーム庄総」結成)

★教員を教科の枠を超えた6班に編成し4期に分けて全員が研究授業をし、空き時間は参観し毎回合評会をすることに決定。

### 【全教員参加型の研究授業の実施】

- テーマ「基礎学力定着を目指したAL型授業の実践」
- 研究授業 第1期 10月31日～11月7日
- 第2期 11月14日～11月18日
- 12月9日 中間授業研修会  
テーマ「生徒に基礎学力を身につけさせるために必要な取り組みについて」
- 第3期 12月12日～1月16日
- 第4期 1月23日～2月3日
- 12月22日 ICT活用研修会 (タブレットの活用)
- 第1回試行調査実施 (CBT・RST・英語スピーキングテスト)
- 2月 職員アンケート実施 (授業改善の成果について調査)  
職員研修「基礎学力定着に直結する授業改善」  
溝上慎一先生  
数学の研究授業実施 第2回県会議

## 溝上慎一先生からの助言

### ○指導案について

生徒に何の力を身につけさせたいのか、またどこに向かって進めているのかがわかる指導案づくりを。表記に関しては、全国版に合わせた形で。

### ○基礎学力定着とアクティブラーニングについて

**アクティブラーニングをすることで生徒の基礎学力が身に着くと安易に考えるべきではない。**生徒自身が記憶しようとする姿勢、点数が取れないとくやしいと感じる姿勢が成り立たないと、いくらアクティブラーニングを取り入れても基礎学力の定着にはつながらない。また、**生徒に達成感、自己肯定感を持たせる意味で、生徒をどう本気にさせるか (仕掛けの工夫)、「本当に頑張る態度」を教師がどう育てていくかが鍵。**

★授業だけでなく、日々の学校生活においてアクティブラーニングを取り入れていく。HRやSHRを活用し、例えば日直に1分スピーチさせるなど、人と人がぶつかって新しい視点を見出す、社会に対応できる力をつけさせることがアクティブラーニングの持つ効果である。

## 変容と効果

### <平成28年度>【教員アンケート】

1. 基礎学力の定着を意識した取組みをしている。 100%
2. 「AL型授業」を意識した取組みをしている。 89%
3. 授業改善の取組み (全員研究授業) をしているが、自分自身の授業において変容がある。 32%
4. 自身の授業改善を通じて、生徒に変容がある。 42%
5. 本校の生徒は「アクティブラーナー」になろうとしている。少しはある：32% あまりない：37%  
全然ない：26% まだ：5%

### 【生徒アンケート】

A (よく当てはまる) B (やや当てはまる)  
C (あまり当てはまらない) D (全く当てはまらない)

- ・本校の先生方は授業の改善のために一生懸命取り組んでいる。  
全体 : A 25.4% B 51.1% C 16.9% D 6.6%

### 【保護者アンケート】

- ・本校は授業の改善に熱心に取り組んである。  
全体 : A 24.0% B 59.8% C 14.7% D 1.5%

### 【ベネッセ基礎力診断テストの結果】

- 2年：成績は国・英が上昇。事前学習の取り組み度が上昇。
- 1年：成績は数が上昇。事前学習の取り組み度が上昇。

## 今後の課題

★本校の生徒の基礎学力の定着・向上を図っていく上で決定的に問題なことは、教室での教師の生徒に対するコントロールが甘いこと。アクティブラーニング型授業だからこそ生徒の真の姿が露呈したと理解すべき。それが基礎学力の低さに表れているということを教師は自覚し、生徒と本気でぶつかっていく気概と覚悟を持って取り組む必要がある。

☆なぜアクティブラーニング型授業をするのかを、授業者である教師が生徒に理解させる必要がある。その前に教師自身の理解は必須である。